



「ディスカバー農山漁村の宝」 フォローアップ調査



令和5年3月

農林水産省農村振興局都市農村交流課

第4回選定地区の主な活動状況

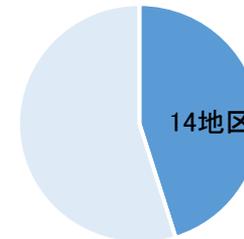
「ディスカバー農山漁村の宝」として平成29年度(第4回選定)に選定された31地区に対して、選定直後の状況と選定から5年後の活動状況について調査を実施。

選定後の活動継続状況

- 第4回選定の31地区について調査したところ、選定から5年後も全ての地区で継続して活動を展開しており、このうち14地区において、売上・利用者数の増加や事業拡大など、取組の進展が見られた。

区分	地区数	割合
a. 活動継続中	27	87.1%
b. 別組織で継続	3	9.7%
c. 活動休止中	1	3.2%

活動の継続実態の有無

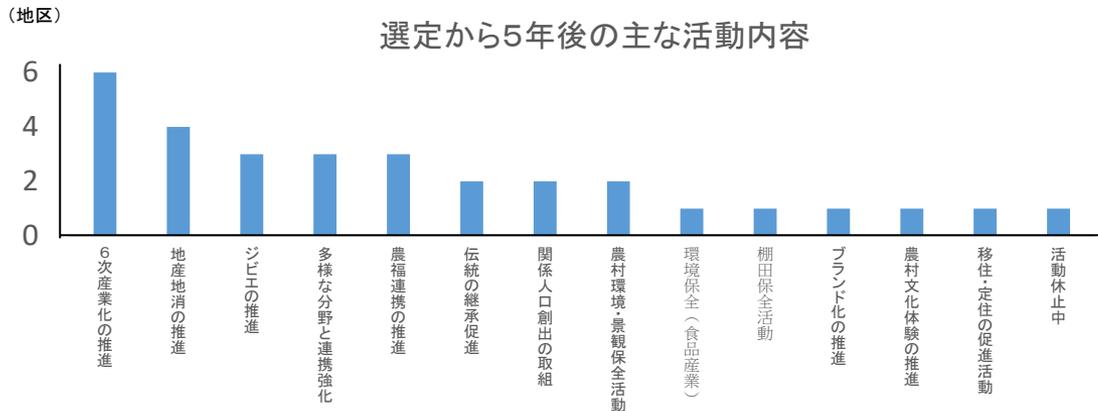


取組の展開状況

- 調査結果により「事業の拡大等」と回答した地区
- 調査結果により「維持・変化なし」と回答した地区

選定から5年後の活動内容

- ①地域産品の開発や販売促進等の6次産業化の取組、②地産地消の取組推進、③ジビエの推進や多様な分野との連携強化等の交流人口拡大の取組、が積極的に行われている。
- このほか、コロナの影響を受けつつも、新たな販路開拓や体制を工夫することによって新たな雇用創出にもつながっている事例もある。



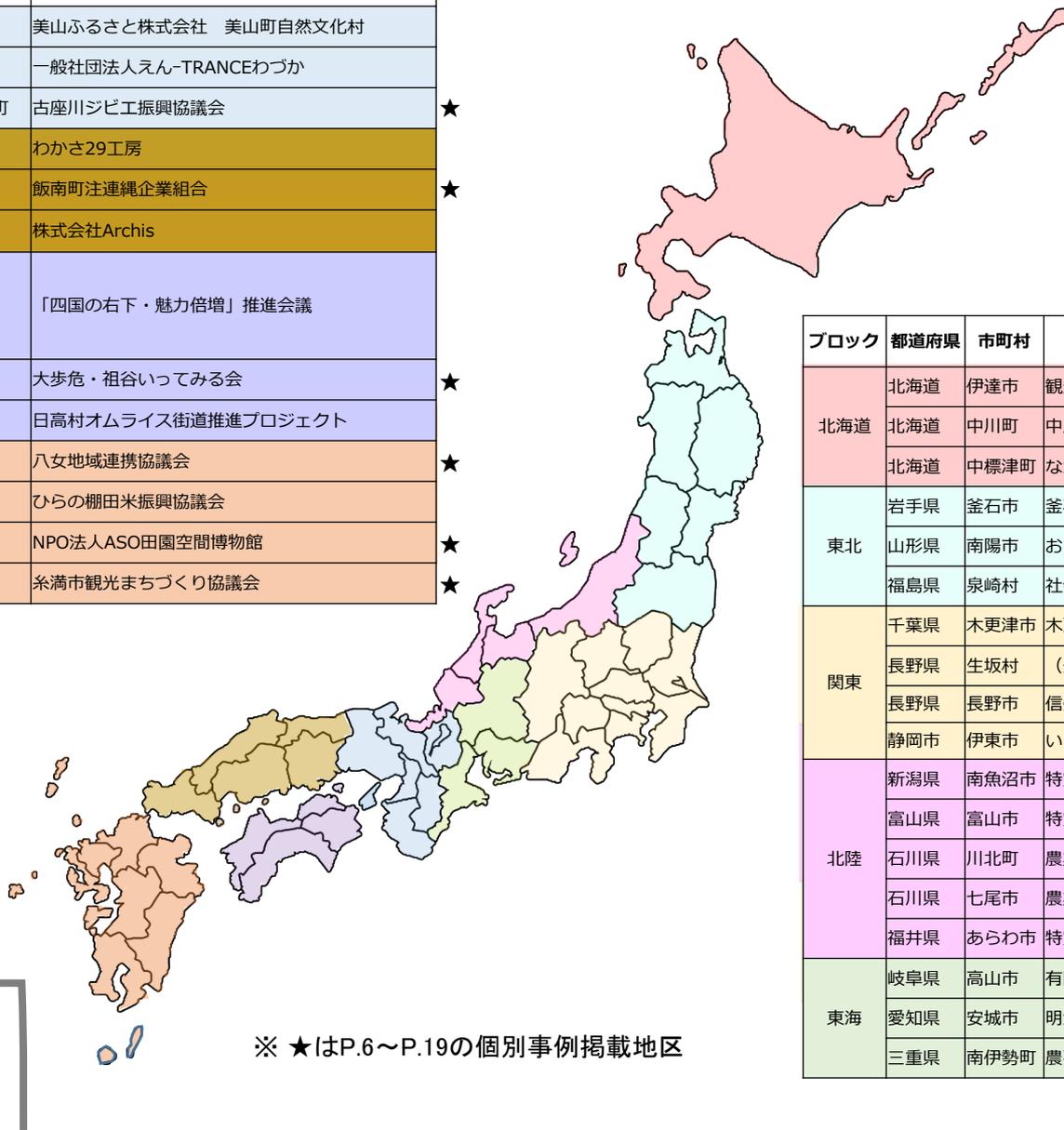
伝統料理の体験型の取組



地域産品開発・6次産業化の取組

第4回選定(平成29年度)地区一覧

ブロック	都道府県	市町村	団体名
近畿	京都府	南丹市	美山ふるさと株式会社 美山町自然文化村
	京都府	和束町	一般社団法人えん-TRANCEわづか
	和歌山県	古座川町	古座川ジビエ振興協議会 ★
中国	鳥取県	若桜町	わかさ29工房
	島根県	飯南町	飯南町注連縄企業組合 ★
	山口県	山口市	株式会社Archis
四国	徳島県	阿南町 那賀町 牟岐町 美波町 海陽町	「四国の右下・魅力倍増」推進会議
	徳島県	三好市	大歩危・祖谷いってみる会 ★
	高知県	日高村	日高村オムライス街道推進プロジェクト
九州・ 沖縄	福岡県	八女市	八女地域連携協議会 ★
	佐賀県	多久市	ひらの棚田米振興協議会
	熊本県	阿蘇市	NPO法人ASO田園空間博物館 ★
	沖縄県	糸満市	糸満市観光まちづくり協議会 ★



※ ★はP.6～P.19の個別事例掲載地区

ブロック	都道府県	市町村	団体名
北海道	北海道	伊達市	観光物産館農産物販売協議会 ★
	北海道	中川町	中川町商工会 ★
	北海道	中標津町	なかしべつ菌床栽培協同組合
東北	岩手県	釜石市	釜石地方森林組合 ★
	山形県	南陽市	おりはた環境保全協議会
	福島県	泉崎村	社会福祉法人こころん
関東	千葉県	木更津市	木更津市観光ブルーベリー園協議会
	長野県	生坂村	(公財) 生坂村農業公社 ★
	長野県	長野市	信州ジビエ研究会
	静岡県	伊東市	いとう漁業協同組合富戸支所ダイビングサービス
北陸	新潟県	南魚沼市	特定非営利活動法人南魚沼もてなしの郷
	富山県	富山市	特定非営利活動法人愛和報恩会 ★
	石川県	川北町	農業法人有限会社わくわく手づくりファーム川北 ★
	石川県	七尾市	農業生産法人株式会社スギヨファーム (休止中)
	福井県	あらわ市	特定非営利活動法人ピアファーム
東海	岐阜県	高山市	有限会社飛驒山椒 ★
	愛知県	安城市	明治用土土地改良区
	三重県	南伊勢町	農事組合法人土実樹 ★

選定地区の主な活動状況〔総括表〕

- 選定により新聞や雑誌に掲載され知名度の向上や県内外から多数の視察を受け入れる等の交流の増加。
- 講師の依頼を受ける等のPR活動の機会の増加。
- 新たな協力関係の構築等による販路開拓等により、選定後も売上を増加させている地区が複数。
- 新たな連携先の確保や新商品の開発等により事業拡大、移住者数が増加等、選定後も各地区の取組が進展。
- コロナ禍を経て売上げのみに拘らず、新規分野への取組の推進やSDGsへの実現に向けた取組の重要性を普及する等地域への貢献活動の増加。

観光物産館農産物販売協議会
(北海道伊達市)

P.5

冬期間も新鮮な野菜の提供可能な生産体制の整備や新規就農者による協議会への加入が5年間で5戸増加のほか交流先数も増加。

交流先数の増加



中川町商工会
(北海道中川町)

P.6

コロナ禍により客数・売上が減少したものの令和3年度は前年度を上回る売上を記録。区・商店街・大学・商工会・観光協会・町の6者で協議会を設置し事業を推進。

売上の増加



釜石地方森林組合
(岩手県釜石市)

P.7

林業の有意性について賛同される企業との業務連携により、建築資材を首都圏販売へと販路拡大。

売上の増加



(公財)生坂村農業公社
(長野県生坂村)

P.8

選定も契機となり、後に道の駅に認定された村建設の「いくさかの郷」での農産物等の販売を実施。認知度向上につながり農産物や食堂の売上は大幅に増加。

売上の増加



NPO法人愛和報恩会
(富山県富山市)

P.9

選定実績を活用し、都市部の親子等との交流を兼ねた体験田んぼを開催。国内外の被災地支援や障がいを持つ人の社会参加活動に貢献。

交流の取組



体験田んぼの開催

わくわく手づくりファーム川北
(石川県能美郡川北町)

P.10

コロナ禍の大きな打撃の中、新たな発泡酒免許取得や商品開発に取り組み販路拡大。JFS-B規格やGGAPを取得。

販路拡大

- 選定前(H28)
 - ・シンガポール
 - ・香港
 - ・台湾
- 選定後の増加(R3)
 - ・アメリカ
 - ・中国
 - ・フランス

選定地区の主な活動状況〔総括表〕

(有)飛驒山椒
(岐阜県高山市)

P.11

地元の農家や高齢者と協力し山椒苗を約100本増加。「山椒塩」、「山椒茶漬」といった新商品を香港へ定期出荷もし、新商品の売上高が増加。



農事組合法人土実樹
(三重県南伊勢市)

P.12

新たなハウスで南国フルーツの試験栽培や新商品の開発に取り組むとともに観光農園の開園に向けてモニターツアーを実施。また担い手育成に貢献。



観光農園モニターツアーの様子

事業拡大

古座川ジビエ振興協議会
(和歌山県紀の川市)

P.13

「古座川ジビエ大作戦」と称し、高たんぱく質、低脂質などのジビエの特徴を活かし、アスリート向け商品の開発やPR活動の実施。ジビエ商品の売上高が増加。



飯南町注連縄企業組合
(島根県飯南町)

P.14

地域に伝わる大しめ縄づくりの伝統技術を観光・産業に活かしながら雇用の場を創出。制作現場は外国人をはじめ一般公開し、体験も実施。



土産用小物商品

事業拡大

大歩危・祖谷いってみる会
(徳島県三好市)

P.15

地域の旅館と行政の連携を強化し地域を売るプロジェクトの一環として料理人を集め地産地消を活かしたガストロノミー事業を実施。外国人宿泊数の増加。



八女地域連携協議会
(福岡県八女市)

P.16

(一社)FM八女に事業継承して季節ごとの暮らしを「体験する旅」等体感できる活動を継続して実施しており、報道で取り上げられるとともに視察の受入を実施。



伝統工芸体験

事業継承

NPO法人ASO田園空間博物館
(熊本県阿蘇市)

P.17

グランプリ

事業拡大

ディスカバー農山漁村の宝選定企業同士で連携した活動を実施するほか、高校生プロデュース商品「あか牛肉飯の素」を開発(R3の売上額:約230万円)。



高校生プロデュースによる商品開発

糸満市観光まちづくり協議会
(沖縄県糸満市)

P.18

地域の食材を使用し「農園カフェぐらんま」を土日限定でオープン。体験型食育講習会を開催し地産地消や食育の推進のみならず高齢者の雇用創出の場を創出。



伝統料理の体験型講習会

事業拡大



観光物産館農産物販売協議会【北海道伊達市】

選定年:H29年

概要

- 冬も人気の直売所にしようと冬季も観光物産館を営業。
- ハウス栽培の導入促進により、冬野菜の生産拡大の取組。
- 出店されている農産物の品質管理の取組。
- ジャムやフラワーアレンジメントの講習会を開催、生産者と消費者との交流の推進。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 道の駅「だて歴史の杜」観光物産館内の直売所にて、83戸の生産者が約150種類の野菜を販売。
- 北海道では冬季休業する直売所が多い中、伊達市の温暖な気候を活かし、ハウス栽培の葉物野菜を中心に通年での直売所営業。
- 観光物産館のイベントのほか、生産者がルバーブジャムやフラワーアレンジメントの講習を開催し生産者と消費者が直接交流を図れる機会の提供。



冬季(1月)の直売所

選定直後の状況

- 観光物産館店内に選定証を掲示し、消費者にも広く周知。
- 直売所の通年営業も消費者に浸透し、年間を通し多数の来館者が訪れ、野菜直売所の販売実績の向上。



農産物販売実績比較 (販売金額は税抜き)

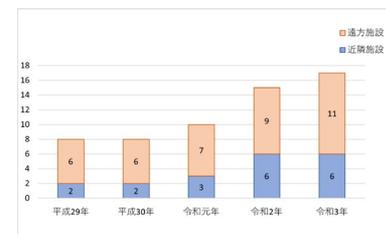
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 農産物販売協議会に登録の85戸の生産者にて、旬の野菜・農産物を販売。
- ビニールハウスを増設し、冬期間も新鮮な野菜を提供できるよう生産体制を整備。
- 新規就農者も5年間で5戸が協議会へ入会し、継続的な運営体制の礎を構築。
- 新作物(自然薯)への挑戦や生産者が自ら加工品(漬物、ピクルス)を製造販売する等、新規分野への取組を推進。
- 選定を機に、他地域の事業所や施設等と野菜・農産物を通じた交流の増加。



生産者が製造し販売している加工品



他地域交流先数年度推移

今後の展開方向

- ウィズコロナ、アフターコロナを想定した非接触型でのイベント・事業の展開を図る予定。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向にある販売実績に歯止めをかけるべく新作物への挑戦等の話題作りの取組。



概要

- 新たな特産品の開発と、中川町ブランド「ナカガワのナカガワ」を発売し、特産品等のパッケージデザインを統一。
- 東京都世田谷区にサテライトスペース「ナカガワのナカガワ」をオープン。放牧牛ソフトクリームを主力とした特産品の販売やイベント情報を発信し、中川町の中側についてのPRの実施。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 新たな特産品の開発に伴い、中川町ブランド「ナカガワのナカガワ」を発売し、既存商品やポスター、買い物袋等もデザインを統一。
- 平成28年10月に東京都世田谷区下高井戸商店街にサテライトスペース「ナカガワのナカガワ」をオープン、放牧牛ソフトクリームを主力とした特産品の販売や中川町の情報発信の取組。



3色のご当地サイダー

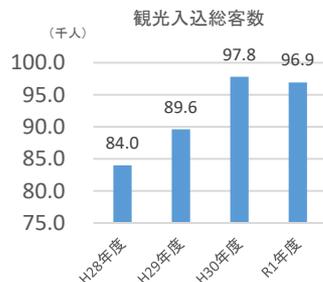


サテライトスペースの店構え/内装



選定直後の状況

- 新聞掲載11件、テレビ報道1件、その他(雑誌・WEB・ラジオ等)8件。
- 大阪府雑報「よしもとエンタメショップ」での特産品の販売実施、関西方面への販路拡大。
- 中川町の観光入込客数の大幅な増加。



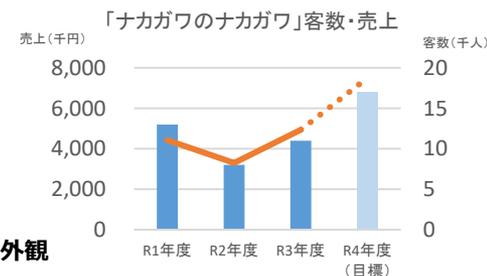
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 令和2年3月にサテライトスペースをリニューアルオープン、来場者数が前年度の1.3倍に増加。令和2年度は緊急事態宣言やサテライトスペース改装による休業のため客数・売上ともに減少しているが、令和3年度は令和2年度を上回る売上の記録。
- 世田谷区・下高井戸商店街・日本大学文理学部と中川町・商工会・観光協会の6者で設置された協議会でサテライトスペース運営支援や地方創生に関する事業の推進。



リニューアル後のサテライトスペース外観



今後の展開方向

- 地方創生に関する事業として、町・商工会・観光協会が連携し、令和4年度を目途に地域商社を設立。
- 日本大学文理学部と連携し、地域社会の調査等の実施。



釜石地方森林組合【岩手県釜石市】

選定年：H29年
(プロデュース賞受賞)

概要

- ラグビーワールドカップ2019や東京オリンピック・パラリンピックに関する建築用材を初めとして木材需要が高まる。
- 二酸化炭素吸収やカーボンニュートラルの観点から林業への見直しが進む。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- パークレイズグループの支援を受け、平成26年から林業スクールを開講。
- 平成27年から森林体験プログラムを事業化。
- 地元スギ需用を掘り起こし、販路拡大を目指して、製材加工場と建具、建築会社、障がい者施設と連携して木材生産から加工、販売を平成27年から一元化。
(上閉伊地区木材流通協議会)



林業スクール受講生とパークレイズ社員

選定直後の状況

- 選定された平成29年に新聞記事及び専門誌に6回掲載。
- 選定後、2年間各所から依頼があり取組事例の講演会を5回実施。
- 平成29年12月に当時の安倍首相、平野復興相、鈴木オリパラ大臣が視察。
- 平成30年31団体629人、令和元年31団体484人の視察・森林体験を受入。
- 選定実績による取組内容に賛同した方々による木製品の購入の増加。



上閉伊地区木材流通協議会
(サプライチェーンの体制強化)



木製品の紹介

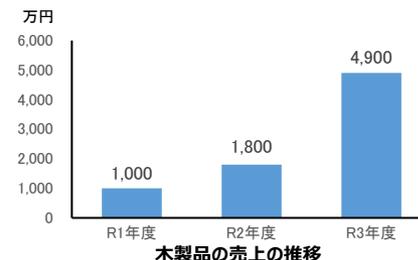
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 令和元年に地元で開催されたラグビーワールドカップや令和3年に開催された東京オリンピック・パラリンピックにおいて、釜石で生産されたスギ材が建築用材として使用。
- 森林の二酸化炭素吸収機能やカーボンニュートラルの観点から、林業の有意性について見直しの進行。
賛同される企業との業務提携により、建築資材を首都圏に販売。
- コロナ禍により、林業スクールの休止を余儀なくされ、新しい林業家の育成に苦慮。
- 地元小・中・高校生を中心に森林の持つ公益的機能の重要性を伝授。SDGsの実現を目指す。



首都圏での環境配慮型の別荘建築への資材納入



今後の展開方向

- 今後は、収入の少ない山主から組合費を徴収しなくても、林業経営を営めるよう、国や県からの補助金(補助率60%)を活用しながら、基金を組成。



(公財) 生坂村農業公社【長野県生坂村】

いくさかむら

選定年:H29年

概要

- 農業後継者不足と耕作放棄地の解消を目指して公社を設立(平成7年)。
- 新規就農者に農地の手配や村営住宅の提供など一体的に支援。女性が中心となって特産品開発や食堂経営の取組。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 40歳未満の家族を対象に新規就農研修を行い、営農指導から販路開拓までを指南。
- 女性の発想と活力を活かした特産品開発。
- 耕作放棄地抑制のため大豆や小麦の種子を無償配布し、収穫物は全量公社が買い取り。直売施設等での販売により、6次産業化ともマッチング。



先輩農家による研修生指導



女性の活躍



耕作放棄地を活用した大豆栽培

選定直後の状況

- 選定も契機となって、村が建設した活性化施設で農産物や特産品の販売実施。その後、同施設が道の駅に認定されたことから認知度が増し、来客数や販売量は大幅に増加。

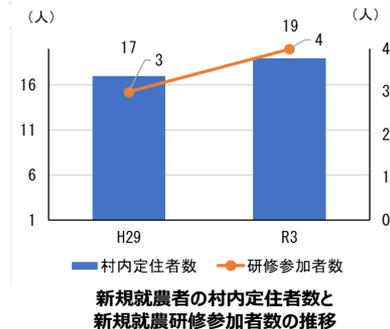
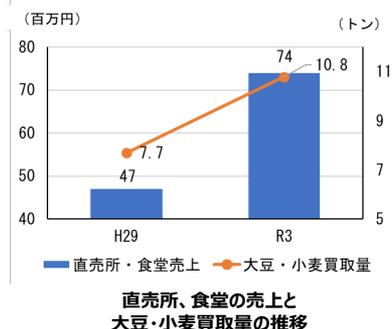


道の駅「いくさかの郷」内の直売所兼食堂「かあさん家」

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 道の駅「いくさかの郷」オープン(令和元年)に伴い、農産物や食堂の売上は大幅に増加。
- 加工品原料である大豆・小麦の生産量(公社の買取量)も増加しており、6次化の推進を後押し。
- 農業研修制度の充実により、参加者数と新規就農者の村内定住も増加。



今後の展開方向

- 新規就農研修制度の申込数に対応できる圃場が不足してきており、新たな研修圃場の整備を検討。



概要

- 障がいを持つ人たちが、後継者がいない農地等を活用し、米や野菜等の農産物を生産。
- 生産した農産物は漬物、団子、ジャム、味噌等に加工し販売。
- 「命燃やすぜプロジェクト」を開始し、生きていくための知識・技術向上を図る研修と国内外の被災地支援や交流の取組。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 放棄田を活用し楮(こうぞ)の栽培(4a)を実施地元産楮和紙の復活を目指しトロロアオイの栽培を開始。



楮の雪さらし作業

- 野菜、米、加工品(漬物、団子)の製造、移動販売を実施。



生産物加工品

選定直後の状況

- 平成28年に命燃やすぜプロジェクトを開始。
- 地元の社会福祉協議会、民生児童委員会等から講演の依頼の増加。
- 令和元年に農福連携フォーラムを開催。
- 令和2年より富山県農福連携推進会議委員を委嘱。
- 選定実績を活用し、都市部の親子等との交流を兼ねて体験田んぼを開催。



農福連携フォーラムin富山での講演

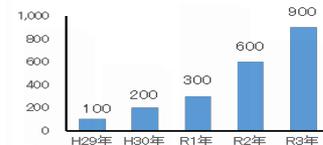
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 施設外就労先の(株)富山環境整備では、当初ごみ分別作業や工場の清掃作業が主であったが、現在では同社が農業分野への事業拡大を図り、ハウス栽培(トマト、花き)の作業を本会で一部受け持つなど、障がいを持つ人の社会参加活動に貢献。
- H29年度から認定農業者として活動、米や野菜の作付け販売を開始。
- H30からネパールの孤児院への寄付や学校への文房具等を届ける直接支援を実施。また、ネパール人留学生を受け入れ、これまでに1名の雇用実績があり、同国震災復興の一助としての取組を実施(現在はコロナ禍のため受入休止中)。



ネパールの学校へ支援



農作業受託費推移(万円)

今後の展開方向

- 引き続き中山間地の農業の維持、継承。また、企業との農福連携のさらなる発展を目指す。
- ネパールに福祉事業所整備し、農福連携事業の展開予定。



体験田んぼの開催



わくわく手づくりファーム川北【石川県能美郡川北町】

選定年:H29年

概要

- 休耕田等を活用して麦を生産し、地ビールを製造・販売、産直物産館では地域の農産物等を販売。
- 平成27年に東南アジアでの輸出拠点としてシンガポールにアンテナショップを開設、平成29年に北米へオリジナルビールの輸出を開始。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 平成10年の法人化から平成28年時点で順調に活動を継続し事業拡大傾向で推移。
- 平成27年からシンガポールでアンテナショップ開設、平成28年からJR東京駅構内でビールの販売を開始。



継続的に販売されている
自社製品(ビール)



シンガポールのアンテナショップ



自社ほ場での原材料収穫

選定直後の状況

- 選定後、6次産業化の取組、産業の魅力について、自治大学、石川県人材確保・定住推進機構より講師の依頼を受け、行政関係者、高校生を対象に講義を実施。

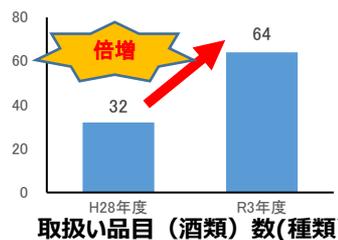
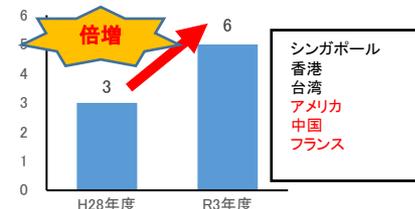
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- コロナ禍の影響で、国内外で大きな打撃を受けたが、発泡酒製造免許を取得し、副原料に地元産の果物を使用した商品を開発し、宅飲み需要の開拓のためにコンビニ等に販路を拡大。
- 令和2年にJFS-B規格を取得、令和4年にGGAPを取得。



石川県いちご、福井産梅
などを使ったクラフトビール



今後の展開方向

- 令和5年にISO22000の認証取得を目指し食品安全性の取組を推進。
- SDGsへの取組として、醸造廃棄物の全量ほ場還元への取組。



(有) 飛騨山椒【岐阜県高山市】

選定年: H29年
(チャレンジ賞受賞)

概要

- 江戸時代に献上品として扱われていた飛騨山椒をブランド化。
- 高齢者の協力により、安定した収穫体制を構築し、女性社員を中心に、商品開発への取組。
- 国内及び海外市場への販路拡大のため商談会等へ出展。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 平成18年度に事業継承し、山椒農家との契約軒数及び収穫量の増加。
- 売上の増加及び販路拡大、更なる新商品開発につなげるため女性の雇用を増員。
- デパートの催事への出展や通信販売により国内の販路を拡大。海外では、ミラノ博、フランスのパリやリヨンの商談会等へ出展。



地元高齢者による山椒収穫



女性正社員による商品開発会議



国際外食見本市への出展

選定直後の状況

- 岐阜新聞(4回)、中日新聞(2回)、全国農業新聞(1回)、朝日新聞(1回)に掲載。
- 他県職員、韓国の国家公務員の視察。
- 月刊「とうかい食べあるき」に掲載。



月刊「とうかい食べあるき」

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 毎年、地元の農家や高齢者の協力を得て、山椒の苗を100本程度を増加。
- 新商品として「山椒塩」、「山椒茶漬」を販売。
- 香港のスーパーへ定期的に出荷しているが、令和3、4年度は収穫減のため出荷停止。令和5年度再開予定。



山椒の苗



新商品「山椒茶漬」「山椒塩」

今後の展開方向

- 他社とコラボして新商品の発売を目指す。
- 収穫効率を上げるため、優良苗を育成し収穫量の増加を目指す。



農事組合法人土実樹【三重県南伊勢町】

選定年:H29年

概要

- 農事組合法人を発足し、多様な品種の柑橘を栽培し、商品開発や販売活動を実施。
- 新規作物栽培のほか、女性や高齢者を雇用し担い手育成の取組を実施。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 環境に配慮し、消費者ニーズにあった多様な品種の柑橘類を栽培。
- 生産物を原料としたジュース、アイスクリームなどの商品開発への取組のほか、列車車内販売など販路を開拓。
- 就農サポートリーダーとして研修生を受入れ、技術習得後は農地の確保を含めた独立支援の実施。
- 女性や高齢者向けに重労働とならないパッションフルーツの栽培や加工への取組を実施。



商品開発した農産物加工品



五ヶ所みかん直売店



パッションフルーツの栽培

選定直後の状況

- 全国菓子博覧会に出展。
- 選定実績を活用して伊勢志摩地域で商品開発・販売先等の新たな協力関係を構築。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 新たなハウスで、パッションフルーツ(露地370鉢・ハウス1095鉢)、南国フルーツ(アボガド・パパイヤ・バナナ)の試験栽培を実施。
- 新たに香酸柑橘類フィンガーライム10種類を栽培。
- 新商品の開発(コンフィチュール6品種、パート・ド・フリユイ2品種等)
- 観光農園の実施に向けてモニターツアーを行い準備中。
- 町内の1名を独立農家へと育成した担い手育成への取組を実施。



新商品 コンフィチュール6種



観光農園モニターツアーの様子



みかんの学校の様子

今後の展開方向

- 新たに増築したハウスの活用方法を検討し再構築計画を行う。
- 町観光協会と連携し、生産農園の見学と栽培・収穫・試食体験メニューを検討・実施する予定。



古座川ジビエ振興協議会【和歌山県古座川町】

選定年:H29年
(古座川ジビエ振興協議会)

概要

- 野生動物を農作物被害をもたらす「厄介者」から「地域の宝(資源)」へと発想を転換し、食文化の創出と地域活性化に活用。
- 高たんぱく低カロリーというジビエの特徴を活かしたアスリート向け商品の開発や、学校給食でのジビエの提供などの取組を実施。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 有害鳥獣として捕獲・廃棄されていたものを、ジビエとして利活用するため、平成26年に古座川ジビエ振興協議会を設立。



全国ご当地バーガーグランプリ(第6回)

- 良質な肉を確保するため、狩猟者を対象とした講習会を開催。

- 「第6回(H28)全国ご当地バーガーグランプリ」で、古座川町の「里山のジビバーガー」が1位を受賞。



ジビエバーガーPR資料

選定直後の状況

- 新聞や雑誌「anan」等に掲載され、県内外から多数の視察の受入。

- 命の大切さや地元産業の認知向上のために開始した町内の小中学校の給食でのジビエの提供数が年々増加。



学校給食でのジビエ料理提供

- ジビエバーガーは年間3万個を販売。

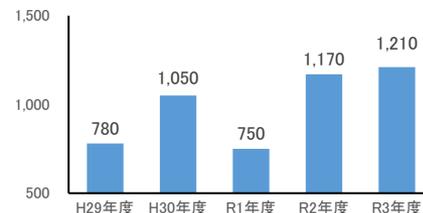
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 高たんぱく質、低脂質等のジビエの特徴を活かしたアスリート向け商品や、課題となっていた「端肉」を利用したウイナー等を開発。
- 「古座川ジビエ大作戦」と称するプロモーションを展開し、格闘技イベント「RIZIN」への出店など、アスリートに向けたジビエ肉のPR活動を実施。
- これらの効果で需要が高まり捕獲動物が不足している状況。
- 町内の全小中学生を対象とした給食でのジビエの提供を継続して実施。



格闘技イベントでの出店



ジビエ商品の売上額(万円)

今後の展開方向

- さらに多くの捕獲動物を受け入れられる体制の構築。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止していた商談会に参加するなどにより、更なる販路を開拓予定。



飯南町注連縄企業組合【島根県飯南町】

選定年:H29年

概要

- 地域に伝わる大しめ縄づくりの伝統技術を観光・産業に活かしながら活動費や雇用の場を確保。
- 大しめ縄の制作現場を外国人をはじめ一般に公開するとともに、しめ縄作りの体験も実施。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 企業組合を結成し、伝統の大しめ縄の制作とPR。「作り続けること」が伝統の技の継承と考え、雇用の場を創出。
- 大しめ縄の制作現場を一般に公開し、しめ縄づくりの体験メニューも提供。
- 大しめ縄の生産は年々拡大し、取引を世界に広げるのに伴い、転作作物として、しめ縄用稲わらの生産拡大。



大しめ縄制作現場を一般に公開



しめ縄づくり体験の実施



外国から観光客のみなさん

選定直後の状況

- 「出雲大社平成の大遷宮」とあいまって出雲大社の大しめ縄の制作活動も多方面から注目され受注生産数も増加。(平成28年40本→令和元年49本)
- 伝統文化を活かしながら、地域における雇用の場を創設。
- 若い世代への貴重な伝統文化の継承と飯南町への観光客誘致に貢献。

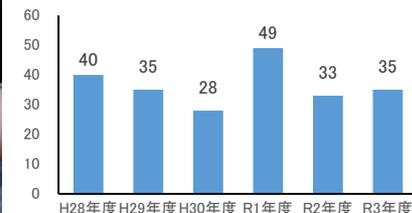
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 大しめ縄用専用ワラでのお土産品の開発と、神社以外からの海外含め、しめ縄の注文受注。
- 大しめ縄の受注のほか、正月飾り等の小物作成も実施。
- 大しめ縄の制作現場を外国人をはじめ一般に公開するとともに、しめ縄作りの体験も実施。



お土産用小物商品



大しめ縄の受注生産数(本)

今後の展開方向

- コロナ禍における令和2年度及び令和3年度においても受注があったことから、引き続き、大しめ縄用専用ワラでの土産品の開発と、神社以外からの海外含め、しめ縄の注文受注を実施していく予定。



大歩危・祖谷いってみる会【徳島県三好市】

選定年:H29年
(フレンドシップ賞受賞)

概要

- 大歩危・祖谷の旅館と行政が一体となって、地域全体の観光商品開発、インバウンド誘致を実施。
- 地域資源を活かしたイベントやツアーを企画、実施するとともに、郷土料理の発掘、新名物や土産品開発の取組を実施。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 行政や地域住民との連携強化。
- 旅行会社等やインバウンド誘致宣伝活動。
- インターネット・SNSを利用した情報発信。
- 新名物料理の開発。
- 英会話講座、観光フォーラム等の開催。



ロサンゼルス総領事館公邸でのプレゼンテーション

選定直後の状況

- 会員ホテルへの宿泊客の増加(H28年約7.4万人→R1:約7.7万人)。
- 香港の個人客を中心に外国人宿泊数の増加(H28:約1.5万人→約2万人)。
- これに伴い、地域のゲストハウスや民宿の宿泊客数も増加。
- 路線バスやタクシー乗客も増えるなど、地域に効果が波及。



社員を対象としたおもてなし英会話講座

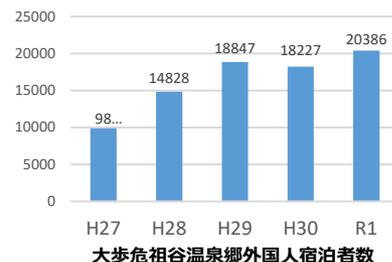
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- ホテル単体を売るのではなく地域を売るプレーヤーとして活動。
- コロナ禍、官民の連携を強化しきめ細かい観光の推進を図るため、当会が中心となり観光未来戦略プロジェクト会議を立ち上げ、着地整備、プロモーション、データ共有などを実施。
- プロジェクトの一環として食の魅力開発を行うため主要宿泊施設の料理人を集め地産地消を活かした新たな料理の開発を進めるガストロノミー事業を開催。
- 地域内の主要観光地の清掃作業を定期的実施。
- 若手社員の研修や育成を地域としての実施。



清掃作業の様子



今後の展開方向

- 観光まちづくりの推進に資するため、官民が一体となり社会経済及び、文化的、環境のサステナビリティに依拠した持続可能な観光地づくりに向けてマネジメントを行う予定。
- 令和2年及び令和3年はコロナ禍の影響を受け外国人宿泊数は伸び悩んだが、今後は『大歩危・祖谷』を四国の秘境から世界の秘境へと世界に通用する観光地を目指す。



八女地域連携協議会【福岡県八女市】

選定年:H29年

概要

- 市町村合併で多様になった観光資源を活用した観光事業を推進。
- バスツアーを中心に新たな旅行商品を開発、催行。
- 大都市へアンテナショップを開設し、農産品等の直売と合わせて観光情報も発信。
- 香港向けモニターツアー等外国人観光客向けの取組も実施。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

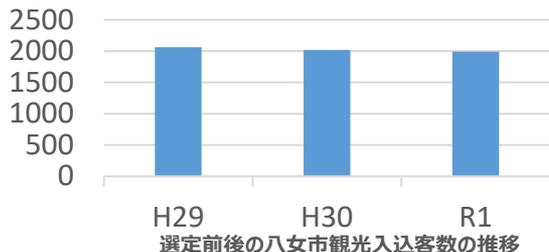
- 市町村合併により新市に点在することとなった地域資源の活用に向け、平成25年に、福岡市内にアンテナショップを開設、着地型旅行商品の開発等に着手。
- 農業、伝統工芸等での体験プログラムや、食や伝統芸能、観光地等を周遊するバス旅行を企画、実施。
- 特に香港の方向けのインバウンドバスツアーを実施。



香港向けインバウンドバスツアー

選定直後の状況

- 鹿児島県の市町村等、県外からの視察を年に複数回の受入。



現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 一般財団法人FM八女に事業を継承して各種活動を継続中。
- 茶のくに八女・奥八女で紡がれてきた伝統工芸、手しごと、山里の季節ごとの暮らしを「体験する旅」(旅する茶のくに週間)や、八女の様々な魅力を体感できる1日周遊バスツアー(旅する茶のくに周遊バスツアー)等を実施。
- コロナ禍においても報道で度々取り上げられ、年に複数回、視察の受入。



伝統工芸体験



地元TV局のアンテナショップの取材

今後の展開方向

- 引き続き、地域の魅力を生かしたプロモーションを国内外に向けに行いつつ、持続性に配慮した「サステナブルツーリズム」先進の地として挙げられるよう、DMOのFM八女を中心に、観光地域づくりを実施予定。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



NPO法人ASO田園空間博物館【熊本県阿蘇市】

選定年: H29年
(グランプリ受賞)

概要

- 道の駅と連携し多言語対応可能な観光案内窓口を設置。7カ国の留学生から自国向けにSNS発信を実施。
- 地元高校と連携し、草原維持に重要な赤牛を使った開発、「高校生プロデュース弁当」として販売。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 道の駅と連携し多言語対応可能な観光案内窓口を設置し、訪れた外国人旅行者は、約2,900人(H27)。
- 7カ国の留学生から自国向けにSNS発信を実施
- 地元高校と連携し、草原維持に重要な赤牛を使った弁当を開発し約500万円の売り上げ
- 熊本地震により、旅行者が減ったため、地域特産品の通信販売を強化。



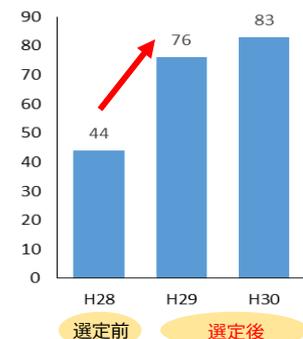
窓口での外国人対応の様子



高校生プロデュース弁当レシピ発表会の様子

選定直後の状況

- 平成30年度は新聞、TV報道及び雑誌等のマスコミ掲載数は83回となり、選定前の約2倍の掲載数に増加。
- 選定後～平成30年度には17団体の視察の受入。選定後は特に外国人農業研修生や観光関連団体等の企業からの申込みが増加。
- WEBサイトの閲覧数は平成30年度は約6万件と従来の2倍以上に増加し、SNSのフォロワー数等も増加。



選定直後のマスコミ掲載回数の推移 (R1以降はH30と同水準(70~80)で推移)

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 高校生プロデュース商品として「あか牛肉飯の素」を開発し、R3年度は約230万円の売上げ。他にも地元の高校や企業と連携し地域農産物を原料とした商品を開発。
- 商品の製造をディスカバー農山漁村の宝選定企業に依頼しコラボ商品を開発する等、選定企業同士で連携した活動も実施。



ディスカバー農山漁村の宝選定企業との連携(左)、高校生プロデュースによる商品開発(中、右)

今後の展開方向

- 地元高校と連携し、アニマルウェルフェアで肥育している豚のPRとして、豚肉を加工品にする事業を推進。
- 世界農業遺産の阿蘇の草原を活用し、農業者と観光関係業者を結び付け、草原利用のルールを作成し、講習を行いガイドを育成、観光客にも草原維持に一役買ってもらう「牧野ガイド事業」を推進する予定。



牧野ガイド養成講座(フィールド)の様子



概要

- 修学旅行民泊だけでなく、行政・市民・民間事業者・関連団体が一体となって、「農」・「漁」・「観光」を連携させた農泊事業を展開。
- 糸満市ならではの様々な地域資源を活用した日帰り体験(農業、漁業、伝統)を構築、年間を通した受入れの充実を図る。

選定年(H29年)前後の状況

選定時までの活動状況

○修学旅行生等の教育民泊だけでなく、「農」「漁」「観光」を連携させ、地域資源を活用した体験メニュー(マンゴー・島野菜等の収穫・加工体験、エイサー体験等)を組み込んだ農泊を展開。



沖縄伝統文化を学ぶインバウンド・大人の農泊

○安心安全な民泊の受入体制の強化を目的とし、防災・救急救命講座、食品衛生法・食物アレルギーの勉強会及び料理講習会等の多種多様な講習会・勉強会を実施。



英語で語ろう勉強会実施 (インバウンド対策)

選定直後の状況

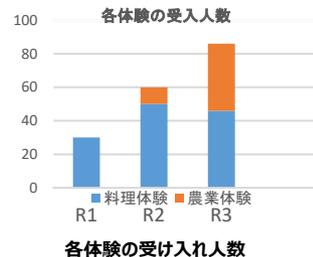
- 地元新聞に掲載。(沖縄タイムス、琉球新報)
- 糸満市広報に掲載。
- 視察団体が2回訪問。
- 県外から講師依頼1件。
- マルシェで紹介したせんべい「かまぺた」がJALグループのJTAで機内販売される。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

○コロナ禍の影響により民泊の利用者数が減少したため、日帰りの体験メニュー(農業体験、漁業体験)を中心に活動の実施。また、令和3年5月～令和4年3月まで地域の食材を使用した「農園カフェぐらんま」を土日限定でオープンし、食育の体験型講習会等の開催により、地産地消や食育の推進だけでなく、高齢者の新たな雇用創出の場に貢献。

○ホテルと連携しての体験の提供(いとまん遊びクーポン等)や他県と連携した食農体験ネットワーク協議会の活動等により、幅広い協力体制を形成。



伝統料理の体験型講習会

今後の展開方向

- 糸満市だけでなく、八重瀬町や南城市等の南部地域において連携し、活動の拡大を図る予定。
- 食農体験ソムリエを中心とした、学校等での食育活動を目指す。